

話し言葉における指示詞コ・ソ・アの研究

— 日本人母語話者の発話資料に基づくコ・ソ・ア分類の枠組み —

迫田 久美子

(広島大学大学院)

0. はじめに

本研究は、迫田(1991)で行った指示詞コ・ソ・アの中間言語研究における課題の一つを発展させて、以下の目的にそって行ったものである。

- ① 日本人の話し言葉におけるコ・ソ・ア使用分類の枠組みを提示する。
- ② その選択にゆれが見られる場合のコ・ソ・アの用法を明らかにする。

迫田(1991)では日本語学習者の指示詞コ・ソ・アの習得研究において発話資料を分類するために、先行研究を踏まえてコ・ソ・ア使用の枠組みを提示した。しかし、それは日本語学習者の発話資料の分類という観点で行ったので、実際の日本人母語話者のコ・ソ・ア使用の一部を対象外とした場合もあった。従って、今回の研究においては、日本人母語話者の会話場面におけるコ・ソ・ア使用の分類という観点に立って、迫田(1991)のコ・ソ・ア使用の枠組みの再編成を行った。

方法としては、日本人母語話者の会話場面の使用例を収集して分類を行った。使用例は、30分の会話テープ10本から収集した。広範囲のコ・ソ・ア使用例を観察するため、会話場面や話題等は出来るだけ制限しないで行った。そして、その使用例を基にしてコ・ソ・アの使い分けのゆれが観察される用法はどれか、またほとんど使い分けのゆれない用法はどれかを明らかにし、さらにそのゆれが一般的であるかどうかを別の日本人母語話者のグループにアンケート調査し、考察を加えた。

1. コ・ソ・ア使用の調査

従来、指示詞コ・ソ・アの分類は指示対象を眼前で直接指示する現場指示(眼前指示または直示指示)用法と談話の中に登場した対象を指示する文脈指示用法とに分けられている。しかし、それらの用法を詳しく

観察するとさらに下位分類され、堀口(1978a, 1978b, 正保(1981), 金水(1990), 宋(1991)はそれぞれの分類を立てている。

迫田(1991)は、上記の先行研究を踏まえてコ・ソ・アの中間言語の分類を目的として、非現場指示用法を以下の7つの用法に分類した。

- | | |
|------------|------------|
| 1) 絶対指示用法 | 2) 単純照応用法 |
| 3) 観念指示用法 | 4) 文脈指示用法1 |
| 5) 文脈指示用法2 | 6) 文脈指示用法3 |
| 7) 文脈指示用法4 | |

本研究では、上記の分類を参考にしながら日本人母語話者に会話調査を行い、その発話資料を基に新たな分類の枠組みを考えた。

調査の概要は以下の通りである。

目的：会話場面における指示詞コ・ソ・アの使用例を収集する。(対話に限らない。)

方法：1時間の会話内容をテープ録音し、その中の30分について使用例を収集し、記録する。

対象：10本の会話テープの状況と参加者の性別と年齢は以下の通りである。

- | | |
|------------------|------------------|
| [1] 中学生同士の会話 | (全員女10代) |
| [2] OL 3人の休憩中の会話 | (全員女20代) |
| [3] 学生(大学院)仲間の会話 | (男・女20代) |
| [4] 高校の後輩と先輩の会話 | (女20代・女40代) |
| [5] 同じ仕事仲間の会話 | (男30代・女40代) |
| [6] 薬屋と客の会話 | (男20代・女40代) |
| [7] 美容師と客の会話 | (女20代・男40代・女40代) |
| [8] 保険外交員と客の会話 | (女40代・女40代) |
| [9] 高校時代の同級生の会話 | (女40代・女40代) |
| [10] 親族(実母・娘)の会話 | (女60代・女40代) |

2. コ・ソ・ア使用の分類とその枠組み

上記の調査を手掛かりに、本研究では日本人母語話者のコ・ソ・ア使用の分類の枠組みを作成した。迫田

(1991)の「コ・ソ・ア」使用の分類の枠組みから改編されたのは、以下の4点であった。

I. 絶対指示用法の分類項目はコ系のみを制限せず、ソ系とア系も加える。

迫田(1991)の分類では、収集された会話資料からは絶対指示用法のソ系が観察されなかった。これは、調査が留学生との対話形式であったこと、話題に若干の制限があったこと等が原因として考えられる。ソ系の絶対指示用法とは、手紙や電話によく見られ、聞き手の存在する場所や時間を絶対的に指示する用法である。本研究では、会話形式は眼前で対面している対話だけではないこと、話題も自由になっていることから絶対指示用法のソ系の使用の可能性を考慮し、分類の枠組みに加えた。また、絶対指示用法のア系についても、堀口(1990)は、話し手でもなく聞き手でもない絶対的なア系の場所はありえないとしながらも、例外として「この世」に対する「あの世」の例を挙げている。従って、今回の枠組みに新たにア系の使用も加えることとした。

II. 対話者同士の非共有体験・知識をア系で指す文脈指示用法4を削除する。

文脈指示用法4とは、以下のような例文である。

- (1) A: アリさんは、キム・ヤンスクさんを知っている？
B: あの人は、髪が長くて眼鏡をかけた人ですか？
- (2) A: 大阪では、フランス人の友達のお宅に泊りました。フランス人は、〇〇大学の留学生です。
あのフランス人のお宅にみんな泊りました。

(1)の文では、BさんはAさんが談話に持ち出したキム・ヤンスクさんが自分の知っている人かどうか同定できないのでア系で指示できず、ソ系を使って指示しなければならない。(2)の文では、対話相手は話し手Aさんのフランス人の友達を知らないので、共有知識の対象を指すアは使えない。しかし、日本語学習者の多くはこれらのア系使用の頻度が高く、迫田(1991)の分類では独立して用法を提示したが、本研究では日本語として不自然な用法であり、日本人の使用には殆ど見られないので削除した。

III. 迫田(1991)で対象外とした次のような発話は、分類対象として、新たに用法を設定して分類の枠組みに加えた。

- (1) B: 今は、こう、情報もあれでしょ、発達してねー

- (2) O: (会話のパターンが)受け身同士が一緒になると、(会話が)続かんちゅう(笑)論理的にはまゝ、あれなんやけどねー

これらは、会話に登場した対象を指示しているのではない。話し手に適切な語が選択できず、とりあえず「アレ」によって代行して発話されている。「こんなことを言っただけで、あれなんですがー」のような決まり文句的な「アレ」の用法は、日本人母語話者には見られるが、日本語学習者には殆ど見られなかった。

これは、一種のコミュニケーション・ストラテジーではないかと考える。コミュニケーション・ストラテジーとは、一般的にはコミュニケーションに問題が生じた時に取られる言語および非言語行動のことであり、R. Ellis (1986) は次のように定義している。

Communication strategies are psycholinguistic plans which exist as part of the language user's communicative competence. They are potentially conscious and serve as substitutes for production plans which the learner is unable to implement. (p. 182)

(1)や(2)の例文を見ると、話し手は何らかの言語成分を言語化しようとして、咄嗟にその漠然とした内容を「アレ」で指してコミュニケーションを続行させようとしている。話し手の中の漠然として対象を指示しているという点では、観念指示用法の一種と考えられる。しかし、観念指示用法の場合(3)、漠然とはいえ、談話の中で話し手はその対象を明確に把握している。それに対して、コミュニケーション・ストラテジーの場合(4)、話し手が対象というよりそれを表す言語成分に対して「アレ」を代行して使用し、その場面のコミュニケーションの問題を解決しようとするものであると考える。ゆえに、本研究では観念指示用法とは別にコミュニケーション・ストラテジー用法を設定し、分類に加えた。

しかし、この用法はコ・ソ・アの全部の指示系で現れるのではなく、また、形態も「アレ」しか使用されないで、一つの用法として独立させることには若干の問題もある。しかし、実際の日本人母語話者の会話にはこの種の用法も多く見られ、本研究では分類に加えた。

- (3) A: 一番好きだった先生って、若かったの？
B: うーん、あの頃は確か36ぐらいだったかなー
- (4) 高校の先生は、クリスチャンやからー、心根のあれの人なんやけどー。

IV. 会話における指示詞コ・ソ・アの用法分類の際、聞き手にとっての指示対象の具体性によって枠組みを構成する。

指示対象の具体性とは、話し手が指示する対象が聞き手にとって、より具体的か否かのことであり、具体的に明示でき、聞き手に分かりやすい場合は具体性が高く、話し手には指示対象が明確であっても、聞き手には分かりにくい場合は具体性が低いと考える。

具体的な用例を見てみよう。

現場指示用法は、具体性の点では話し手・聞き手の眼前の指示対象を直接に指示するので、一番具体性が高いと考えられる。

次に具体性が高いと考えられるのは、絶対指示用法であろう。これは、電話などで「こっちは雨が降っているけど、そっちはどう？」などに用いられる「こっち」「そっち」であるが、話し手および聞き手の存在する場所や時間を絶対的に指示するので、聞き手にとっては指示する対象は分かりやすい。また、この用法では指示対象が場所か時間であり、抽象的な言語内容は指示対象にならないという点においても具体性が高いと言える。

次に、単純照応用法であるが、まず例を見てみる。

(5) 「この話、知ってる？山田さん、会社やめてブティックの店を持つんだって。」

(6) 「ここは会社員とその家族が利用できます。」

いずれも、話し手と聞き手と指示対象の心理的・時間的距離、共有経験・知識等に関係なく指示詞が選択される場合である。「コ」の後方照応では、必ず後にその指示内容が提示されることは明確であり、聞き手もその時点で次に話される内容が指示対象であることが分かる。また、「ソ」の場合も「ソノ」で指示される先行詞は前出の名詞句であることが明白であり、次のような文脈指示用法の「ソノ」と比較すると分かりやすいと言える。

「今日、学校で先生から喫煙の有害性についての話しがあった。家に帰ってその話をしたら、愛煙家の父はしぶい顔をしていた。」田中 (1981, p. 35)

このような文脈指示用法の場合¹⁾、「その話」は二通りの解釈が出来、「今日、学校で先生からあった喫煙についての有害性についての話し」と「今日、学校で先生から喫煙の有害性についての話しがあったという話し」である。ところが、後件の文を次のようにすると、指示対象がどちらかに決定される。

(7) 「家に帰ってその話をしたら、父は医学的には疑わしいと言った。」

この場合は、喫煙についての有害性の話を指し、

(8) 「家に帰ってその話をしたら、学校で煙草を吸っ

ている学生がいるのかと聞かれた。」

この場合は、学校で喫煙の有害性の話があったという話を指している。このように文脈指示用法には文脈によって、指示対象の解釈が明確であったり、不明確であったりする。その点において指示対象の具体性、つまり聞き手にとっての分かりやすさが単純照応に比べると低いと考える²⁾。

次に、観念指示用法はさらに指示対象が不明確になる。例を見てみよう。

(9) 「アレルギーってというのは、『これは身体にすごいことが起きてるなー』ってことで、自分の防衛反応が過剰に働いて出るんです。」

(10) 「おでかけですか?」「ええ、ちょっとそこまで。」前者の場合、指示対象は話し手の身体に影響する何らかの変化であり、後者の場合の指示対象は話し手の行き先である。しかし、どちらも話し手にはある程度明らかでも聞き手には明確になっていない。後者などは観念指示用法を積極的に使って明確にしない機能を働かせていると考えられる。その意味でも、観念指示用法は文脈指示用法に比べると、さらに具体性が低いと言える。

最後にコミュニケーション・ストラテジー用法であるが、これは話し手の中で発話したい事柄はあるけれど、その言語成分がすぐ言語表現にならない、あるいはなりにくい場合に指示詞で代用するのである。従って、その指示先は話し手も不明確であると考えられる。

(11) 「こんなことを言っっては、あれですが、留学生にもいろいろレベルがあって、まとめていくのって大変なんですよねー。」

「アレ」の内容は「言い訳がましいかもしれませんが」、「弁解になります」、「申しわけないんですが」、「言いすぎかもしれませんが、」などが考えられ、ある種の気持ちの共通性は認められる。しかし、話し手自身もどう表現しているか、指示詞を使うことで指示対象を不明確にしている。従って具体性については一番低いと考えられる。

以上、4つの改編した点について述べた。ここに、本研究でのコ・ソ・アの用法8つの例文とともに用法分類の枠組みを提示する。(図1参照)

例文は、前章で調査した発話資料から抜粋した。

() は、筆者が補足した内容を示す。

[] は、発話資料の分類を示す。

現場指示用法については、本研究が非現場指示用法を中心としているので一例のみ、また、絶対指示用法の「A-I」は2. Iで説明したので、省略した。

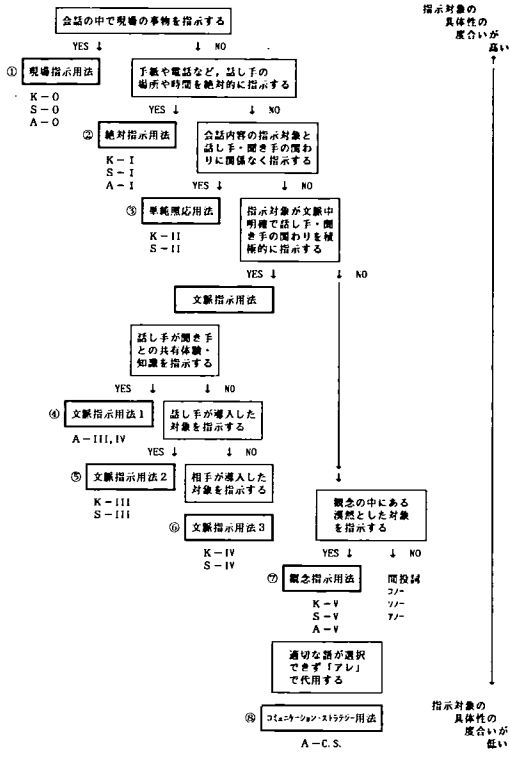


図1 会話における指示詞コ・ソ・ア使用の分類

- ① 現場指示用法 (K-0)

K-0 A: (ケーキをたべながら) このケーキ, おいしいねー, だれが作ったん? [中学]
- ② 絶対指示用法 (K-I・S-I)

K-I H: (東京に居たけれど,) 彼が勤めるのでこっち(広島)に帰って来た頃, 私もこっち(広島)に帰って来た。 [同級]

S-I S: 電話番号まちがえてねー, うち思わず「そちらはどなたですか」ゆうて, ゆうたんよー [中学]
- ③ 単純照応用法 (K-II, S-II)

K-II Y: (癌は) 大きな原因が4つあってね, タバコ・ストレス・酒・疲労・この4つですね [薬屋]

S-II K: (最近両親は) 理解してくれる人がおったら, そん時は結婚しなさいとかゆうようになっぺー [後輩]
- ④ 文脈指示用法1 (A-III, IV)

A-III K: (友達がおせち料理のバイトで) 大みそかの前の日かで, あれはあんまり早う作れんでしょう, そりゃー保存食はいいけど [後輩]

A-IV S: (相手の両親の結婚の話をしきいて) 101

- 回目のプロポーズみたいね。
 K: そうそう, あれみたいなかんじ。 [後輩]
- ⑤ 文脈指示用法2 (K-III, S-III)

K-III Y: 弟や妹が出来た子供さんが急にぜんそくになる, これは結構ありますからねー [薬屋]

S-III O: この前もねー, 友達と酒飲んでてわしが昔の思い出を話したら, それをその友達がおもしろがってテープに取り出したんよ [学生]
 - ⑥ 文脈指示用法3 (K-IV, S-IV)

K-IV S: (わが家の) 薬の使い方, 片寄ってます?
 Y: うーん, まあー, これは家によって違いますからねー [薬屋]

S-IV S: 結婚しても仕事は続けていきたい?
 K: そこは, まだ迷っています。 [後輩]
 - ⑦ 観念指示用法 (K-V, S-V, A-V)

K-V Y: アレルギーっていうのは, からだ自身が『これはすごい事が起きてるなー』ってことで, 自分の防衛反応が過剰に働いて出るので [薬屋]

- S-V S: お弟子さん達を育ててるの?
 B: 今はやっぱり彼らがその気にならないとねー, 難しいですよ。 [美容]
- A-V N: 一緒に帰った好きな先生って, 若い先生なの?
 O: うーん, あの時は, えーと確か三十六ぐらいだったかなー。 [学生]
- ⑧ コミュニケーション・ストラテジー用法 (A-C.S.)

A-C S K: この仕事を紹介してもらったのが伯母だったから, 今やめるのもあれかなあとって [保険]

3. コ・ソ・ア選択に関するゆれ

本研究の二番目の目的は, その選択にゆれが見られるのはどの用法かを調べることである。そこで, 筆者はまずコ・ソ・ア使用調査で収集した発話資料を用法別に頻度数で分類を行った。以下は, 10本分のテープに現れたコ・ソ・ア使用の回数である。(表1)

この結果から, 大まかに次のようなことが言える。

- 1) 発話の中で使用頻度の高い用法は, 圧倒的に文脈指示用法が多く, 次に観念指示用法が多かった。
- 2) 文脈指示用法の中でも, 多用されているのはソ系が多く, 次にア系が多く, コ系は少なかった。

では, 果たしてこれらのどの用法に選択のゆれが見られるのだろうか。そこで, これらの非現場指示用法の発話例を取り上げて, 発話者以外の日本人母語話者

表1 コ・ソ・ア使用調査結果

		(回数)										
		中学	OL	学生	後輩	仕事	薬屋	美容	保険	同級	親族	計
絶対	K-I	3	0	1	1	1	1	0	1	2	1	11
	S-I	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
照応	K-II	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
	S-II	1	2	3	0	0	9	0	4	0	0	19
文脈	A-	24	19	11	5	11	11	8	5	10	13	117
	K-III	0	0	3	1	2	7	0	0	1	1	15
	S-III	10	13	89	50	52	56	12	32	20	9	343
	K-IV	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	3
用法	S-IV	12	9	21	18	16	21	14	7	9	4	131
観念	K-V	0	2	3	5	5	11	1	6	2	0	35
	S-V	0	4	7	6	9	5	1	0	1	0	33
用法	A-V	4	6	11	9	11	1	0	1	8	7	58
	A-CS	1	1	10	2	3	5	17	8	2	10	59
	計	56	56	160	98	110	128	53	64	57	45	827

のグループに、発話者と同じ指示詞を選択するかどうかをアンケートによって調査した。つまり、資料の発話者と同じ指示詞を選択する割合が高い場合は、その用法はゆれが少ないと考えられ、それ以外の指示詞の選択の割合が高いとその用法にゆれが多いことが考えられる。

調査の概要は以下の通りである³⁾。

目的：コ・ソ・アの用法別のゆれを観察する。

対象：大学生（女）60名

方法：1. の調査で得た発話資料の中から25問の文を作成し、コ・ソ・アの選択をアンケート調査した。選択肢は一つに制限せず、許容度に応じて○、△、×の三種類とした。調査後、その指示詞を○で選択した人、△で選択した人が何人いたかを数値で示した。そしてさらに、○は2点、△は1点、×は0点でその指示詞を選択した人の点数を算出し、それが全体（60人×2点=120点）の何割にあたるかを計算した。結果は、表2の通りである。表の見方を説明する。

まず単純照応用法の分類で、K-IIというのは単純照応のコ系の発話が基になった例文であることを示す。番号は、アンケート調査の問題番号を示す。つまり、4、6、15はこの用法に関する問題である。次に、○（△）は、○で選択した人の数であり、（ ）内は△で選択した人の数である。そして、それを点数で算出し、全体の割合で表されたのが%の数値である。従って、4番の問題については、発話者と同様にコ系を○で選択した人が56人、△で選択した人が1人、合わせると点数は56×2 + 1×1 = 113全体に対する割合は113÷120×100=94.2となる。

表2 用法別指示詞のゆれ調査結果

		コ		ソ		ア		
分類	番号	○(△)	%	○(△)	%	○(△)	%	
単純照応	K-II	4	56 (1)	94	3 (17)	19	4 (11)	16
	S-II	6	59 (0)	98	0 (15)	13	1 (3)	4
文脈指示	K-III	8	38 (14)	75	29 (22)	67+	5 (18)	23
	S-III	7	2 (7)	9	38 (21)	81	31 (17)	66+
用法	K-IV	13	17 (27)	51	0 (0)	0	49 (9)	89*
	S-IV	9-1	3 (10)	13	56 (1)	94	3 (18)	20
観念指示	K-V	19	54 (5)	94	1 (8)	8	9 (13)	26
	S-V	2	0 (4)	3	59 (0)	98	0 (5)	4
コミュニケーション・ストラテジー	21-1	2	5 (9)	8	25 (25)	63+	46 (10)	85
	21-2	3	3 (9)	13	28 (19)	63+	42 (12)	80
	15	51 (9)	93	20 (30)	58	0 (6)	5	
	3	1 (16)	14	54 (1)	91	5 (7)	14	
	5	5 (15)	21	47 (8)	85	0 (0)	0	
	12	39 (12)	75	25 (16)	55+	13 (12)	32	
	9	15 (15)	38	47 (9)	86	21 (23)	54	
	11	1 (20)	18	49 (4)	85	1 (3)	4	
	20	7 (24)	32	53 (6)	93	5 (10)	17	
	14	14 (26)	45	52 (4)	90*	1 (11)	11	
	16	25 (23)	61	43 (11)	81*	6 (13)	21	
	10	1 (14)	13	59 (0)	98	0 (6)	5	
	17	2 (9)	11	57 (1)	96	3 (15)	18	
	25	52 (3)	89	7 (9)	20	2 (2)	5	
	22	21 (18)	50	44 (10)	82	6 (10)	18	
	21-1	2 (5)	8	25 (25)	63+	46 (10)	85	
	21-2	3 (9)	13	28 (19)	63+	42 (12)	80	
	18	1 (4)	5	2 (9)	11	52 (2)	88	
	24	0 (0)	0	1 (2)	3	57 (0)	95	

この調査結果から、以下のことが観察される。

- 1) 単純照応用法では、コ系もソ系もかなり高い割合（85%以上）で発話者の指示詞系、つまり分類どおりの指示詞系を選択している。
- 2) 文脈指示用法ではK-III、S-IIIの用法、つまり指示対象を話し手が持ち出して指示する場合には、分類通りの指示詞系を選択している人の割合がそうでない指示詞系を選択する人の割合よりも高い。しかし、コ系（K-III）の場合は、同時にソ系を選択している人の割合も高く、ソ系（S-III）の場合、ア系を選択している人も多い。（割合の差が30%未満の場合を+部分参照）
- 3) 同じく文脈指示用法3のK-IV、S-IVの場合になると、ソ系（S-IV）では、高い割合で分類どおりの選択を行っているが、コ系（K-IV）では3例のうちいずれもコ系選択の割合は、他の指示詞系の選択の割合より少ない。（*印部分参照）
- 4) 観念指示用法では、コ系（K-V）、ソ系（S-V）の場合は分類通りの指示詞が選択される割合が高いが、ソ系の割合も高い。（割合の差が30%未満の場合を+部分参照）
- 5) コミュニケーション・ストラテジー用法は、ほと

んどア系選択で、他の指示詞選択の割合は低い。

以上の結果から、コ・ソ・アの選択のゆれについて次のように考察を行った。

1. コ・ソ・アの用法のうち、単純照応用法と観念指示用法のコ・ソ系、またコミュニケーション・ストラテジー用法では、あまり大きなゆれは見られないと言える。
2. 文脈指示用法のうち、S-IVの対話相手が導入した対象を指示する場合はソ系で指す割合が高く、あまりゆれは見られないが、それ以外の場合はゆれが予想される。
3. 特に、ゆれが大きいと予想されるのは文脈指示用法3のコ系の用法、K-IVであり、相手が導入した指示対象をコ系で指すより、ソ系やア系が選択される割合が高いと考えられる。

4. おわりに

本研究では、迫田(1991)の課題であった日本人の話し言葉におけるコ・ソ・ア使用の分類の枠組みを提示し、その用法でのコ・ソ・ア選択のゆれを観察した。

コ・ソ・ア使用の分類の枠組みは、会話テープによる実際の発話資料に基づいて行った。また、コ・ソ・アの選択のゆれは、発話資料から例文を取り、それを他の日本人母語話者のグループにアンケート調査して観察した。その結果、文脈指示用法と観念用法の一部でゆれが観察され、特にコ系の文脈指示用法はゆれが大きいことが明らかになった。

コ・ソ・アの選択のゆれについては、その要因は何が影響するののかも含めて、さらに詳しい調査が必要であると考える。また、コミュニケーション・ストラテジー用法についても、その用法の妥当性の検討と下位分類も、より多くの資料をもとに考えていかなければならない。これらの問題を今後の課題として、さらに研究を深めたいと考える。

注)

- 1) 田中(1981)は、この二通りの解釈については、前者を照応用法、後者をダイクシス用法と呼んでいる。この場合の照応用法と本研究の単純照応用法とは異なった定義によるもので、同じ用法ではない。
- 2) 文脈指示用法1～3の間の具体性の段階づけは、今回は言及しない。
- 3) この調査では、絶対指示用法と共有経験や知識を

指すア系の文脈指示用法1は対象としなかった。それは以下の理由による。

絶対指示用法は、話し手・聞き手の存在する場所および時間を絶対的に指示するという特徴から、他の指示詞系では置き換えができず、従ってゆれの観察対象にはなり得ない。

ア系の文脈指示用法1は、他の文脈指示用法とは違って選択肢がア系一つしかなくゆれの可能性が少なくと判断し、問題量との関係で削除した。

引用文献：

- 金水 敏 (1990)「指示詞と談話の構造」『言語』第19巻、第4号、大修館
- 迫田久美子 (1991)「日本語学習者による指示詞「コ・ソ・ア」の習得に関する研究」広島大学大学院 修士論文
- 正保 勇 (1981)「コ・ソ・アの体系」『日本語の指示詞』国立国語研究所
- 宋 晩翼 (1991)「日本語教育のための日韓指示詞の対照研究」『日本語教育』75号 日本語教育学会
- 田中 望 (1981)「「コソア」をめぐる諸問題」『日本語の指示詞』国立国語研究所
- 堀口和吉 (1978a)「指示詞「コソア」考」『論集日本文学・日本語』5 角川書店
- (1978b)「指示詞の表現性」『日本語・日本文化』8 大阪外国語大学
- (1990)「指示詞コソアの表現」『日本語学』第9巻、3月、明治書院
- Ellis, R. (1985) *Understanding Second Language Acquisition*, Oxford Univ. Press